



ひよこ組クラスだより

令和2年9月15日（火）発行

担当：金城さゆり

今月始めの台風の後から暑さも少しずつ和らいだように感じます。先月までは気温が高く室内中心の遊びが多かったのですが、今月からは戸外での遊びも少しずつ取り入れていながら、今しか体験できない感触遊びなどもたくさん出来るといいなと思っています。先月からの新型コロナウイルス感染拡大防止の為、家庭保育のご協力ありがとうございました。これからも検温やこまめな手洗い、各部屋の消毒など感染防止をしていきますのでよろしくお願いします。



きらりチーム

・小麦粉粘土や寒天、氷などいろいろな感触遊びを楽しんでいます。小麦粉粘土をした時、初回はひよこ組だけでやったので触りたがらない子もいましたが、2回目からはうさぎ組と一緒にやっています。すると、感触を嫌がっていた子もうさぎ組の子が遊ぶのを見てちぎったり、握ったりしていました。異年齢との関わりの良さを感じました。

なごみチーム

・「童謡えほん」というボタンを押すと曲が流れてくるおもちゃがあるのですが、クラスのみんなはそのおもちゃがお気に入り。ボタンを押して曲が流れてくるとリズムに合わせて体を横にゆらしたり、歌を歌ったりしています。その姿がとてもかわいいです♥また、保育士との触れ合い手遊びをしたり、絵本の読み聞かせも楽しむようになりました。



お知らせ

なごみチームの玉城ゆきの先生が産休に入りました。今月からゆきの先生の代わりに大城秀美先生がクラスに入りますのでよろしくお願いします。



絵本楽しいね。



小麦粉粘土楽しいね。



裏もあります→

～食べ物による誤嚥を防ぐには～

食品の窒息事故は4歳以下に起こりやすいと言われています。

保育園でも家庭でも役に立つポイント

- ・食品の窒息事故は4歳以下に起こりやすいと言われています。3歳になるまでは乾いた豆類や乾いた豆類が入ったチョコレートなどは食べさせない。
- ・食事中に子どもの肩を叩いたり、大声で呼んだり、ビックリさせたりしない。
- ・丸くて滑りやすい食品(豆、ミニトマト、ぶどう、団子など)や硬くてうまく噛めないもの(生の人参、りんごなど)は窒息事故に注意が必要です。
- ・食事中は子どもから目を離さない。

特に家庭でも役立つポイント

- ・寝た姿勢で食べる、歩きながら、遊びながらの「ながら食べ」をしない。
 - ・乗り物に乗るときは豆類は絶対に食べさせない。急停車や揺れが誤嚥を招くことがある。
 - ・上の子が乳幼児に食べ物を与えないように注意。
 - ・弁当にミニトマトやチーズ、ぶどうなど球形を入れるときは、食べやすい大きさにカットする。(球形の食べ物は噛もうとしても口の中で逃げてしまい喉に入ってしまう危険性が高いので、4つに切ることが大切です)
- (ソーセージやスティックチーズなど切り口が円の物は縦に裂きましょう)

窒息予防にも肥満予防にも食べる機能の育成が重要

- ・よく噛まずに丸飲みするのどに詰まらせる(窒息の)リスク、胃腸に負担がかかる。
- ・口いっぱい頬ばり、早食いをする過食、肥満を招く、味わいや食の満足を得にくい

園でも家庭でも誤嚥や誤飲に気を付けながら皆で楽しく食事ができるようにしたいですね